

(16) 歯学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会(委員長:神原正樹、大阪歯科大学)は20年5月、9月(合同)、21年3月の計3回開催した。歯学教育では到達目標が明確であり、モデルコアカリキュラムも明確になっていることから、「教員の教育力」に絞った検討を行うこととし「現状の問題解決のために活用するティーチング・ポートフォリオと10年先の問題を解決するためのティーチング・ポートフォリオについて」研究を進めた。

先ずポートフォリオ評価について理解するため、以下の点について意見交換した。

1. ポートフォリオ評価とは
2. 教育現場へのポートフォリオ評価導入の経緯
3. ポートフォリオ評価の分類
 - * 学生のための学習ポートフォリオ、ティーチング・ポートフォリオ、教員評価、大学の管理運営者のためのポートフォリオ
4. 歯学教育におけるティーチング・ポートフォリオ
 - * 大学の使命、期待される歯科医師像、歯学教育システムとティーチング・ポートフォリオ、歯学教育へのティーチング・ポートフォリオ導入の方法・公開

その結果、新しい教育システムや教育技法を取り入れて行く中で、チュートリアルやPBLや様々な試みがなされているが、それがどのように学生にフィードバックされ、学生が6年間継続していけるかが今一つ明らかでない。生涯学習の姿勢を6年間の中で修得させることが大学の使命である。教育改革の様々な試みは、態度や内面の問題や卒後の学ぶ姿勢などを修得させるチュートリアル教育の目的と一致すると判断した。

以上の検討を踏まえ、委員会ではティーチング・ポートフォリオの検討を進めるに当たり、教育者としての「職務」について“意識あわせ”しなければ、各大学共通の大学の使命を認識することにならないと判断し、今後は、各大学の資料を持ちよって教育者としての専門性、教育力について検討することにした。